

「海外メディア本邦招へいプログラム」で被災地を訪問

01



神戸市の「人と防災未来センター」では、阪神・淡路大震災の被害を伝える展示に見入っていた

2月19日から2週間、JICAの「海外メディア本邦招へいプログラム」が兵庫、宮城、岩手の3県で行われました。このプログラムは、海外メディアの関係者を対象に、日本のODAの取り組みや知見、技術の理解促進のため、JICAが毎年実施しているもの。今年のテーマには「防災・災害復興」が選ばれ、日本と同様に地震国であるインドネシアやトルコを含む9カ国の新聞社・テレビ局の関係者ら12人が阪神・淡路大震災と東日本大震災の被災地を訪問しました。

神戸市では、JICAと兵庫県が協働で設立した「国際防災研修センター」を訪問。防災分野の人材育成の重要性などについて学びました。また、地震後に大規模な火災に見舞われた長田区のまちづくりに取り組むNPO「まち・コミュニティ再生」では、復興におけるコミュニティ再生の難しさについても共有。フィリピンのマニラ・プリティン紙のアーロン・レクエンコ記者は、「地域住民が連帯し、自分たちでコミュニティを再建しようとしてきた努力は素晴らしい」と感銘を受けていました。

続いて一行は、復旧・復興の真つた



「石巻日日新聞」の外処記者から話を聞く海外メディア関係者

中にある東日本大震災の被災地に向かいました。宮城県東松島市鳴瀬地区の「鳴瀬被災者サポートセンター」では、こころのケアの一環として住民がいつでも気軽に立ち寄れるスペースを開放し、日々のコミュニケーションやイベントなどを通じて、被災した人々が安心して心豊かに暮らせるように支援していることなどについて聞きました。

また、地震の翌日から手書きの壁新聞を発行した「石巻日日新聞」の外処健一記者の「地域の人たちが情報を待ち望んでいる中、今ここで新聞を発行しなければ私たちの存在意義はない。手元にあった紙とペンを使い、壁新聞を発行し避難所などに掲示した」という話に、参加者たちは同じメディア関係者として大変刺激を受けた様子でした。トルコ国営テレビ&ラジオのマフムット・ジュネット・アヴシャロールカメラマンは「想像を超え被害を受けた被災地の人々が、自らの手で立ち上がろうとしているのがとても印象的だった。2011年10月にトルコ東部で発生した地震の被災者をはじめトルコの人々に、日本で見たこと、聞いたことをしっかりと伝えたい」と話しました。

02

「アフリカ・ビジネス・キャラバン」で中小企業のアフリカ進出を支援

JICAは日本の中小企業の海外展開を支援すべく、アフリカに関心の高い企業に対する情報提供の場として「アフリカ・ビジネス・キャラバン」を全国各地で実施しています。昨年11月の広島市を皮切りに、第2回目3月7日に愛媛県松山市で開催されました。

当日はまず、アフリカの気候、資源、人口、経済状況、課題などをJICA職員が紹介。一般的なイメージからアフリカへの進出にはそのリスクが目が行きがちですが、資源が豊富なこと、欧州より投資環境がよい地域もあること、人口増加により大量消費が見込まれることなど、進出によるメリットを説明しました。続いて、すでにアフリカでのビジネス展開に成功している株式会社

社FAR EASTの佐々木敏行代表取締役が講演。「アフリカの商品を日本で販売する際、無名であることを、目新しさ、とらえてポジティブに宣伝していくという意識が大切」と強調しました。また、商品に付加価値をつけて販路を開拓した事例なども紹介され、「あきらめないことが大事。たくさんのチャンスが眠っているので、一つ一つ問題を解決していけば早期に進出が実現できる」とのメッセージが送られました。

JICAは2012年度から、中小企業の海外展開の事前調査を支援するスキームを開始します。日本経済の活性化にも貢献すべく、今後も途上国でのビジネスを検討している日本の中小企業への支援を強化していく方針です。

03

「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2011」入賞者発表

JICAが毎年、夏休み期間に実施している「JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2011」の入賞者が発表され、2月末に授賞式が行われました。今回のテーマは「これからの日本と世界の中で私たちができること」。50回の歴史の中で過去最多となる総計7万5662点(中学生の部5万303点、高校生2万5359点)の力作が集まりました。

- 最優秀賞
- 中学生の部
 - 知立市立竜北中学校2年 上村莉愛さん
 - 「二つをつなぐ橋」
 - 岡山大学教育学部附属中学校1年 山内宙さん
 - 「小さな第一歩」
 - 平塚市立山城中学校1年 佐々木健人さん
 - 「世界で奏でられるメロデー」

- 最優秀賞の受賞者には、今年の夏、JICAが支援する開発途上国への研修旅行が贈られ、国際協力の現場を視察します。
- 「農」を学ぶ私がマリの人々にできること」
- 群馬県立勢多農林高等学校1年 古谷ひかるさん
 - 「流学レポート」
 - 学校法人海陽学園海陽中等教育学校2年 手嶋毅志さん
 - 「私の中の大きな力」
 - 明治学院高等学校1年 松本花野さん
 - 「高校生への部」



中学生の部でJICA理事長賞を受賞した上村さん